

施工前にこの施工説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
 施工後は、お客様へご使用方法を十分ご説明のうえ、この施工説明書と取扱説明書をお客様へお渡しください。

安全上のご注意

施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。

人への危害、財産の損害を防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
 ■誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告 「死亡または重傷」に結び付く可能性があります。	注意 「傷害または物的損害」に結び付く可能性があります。
-----------------------------------	-------------------------------------

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

してはいけない「禁止」の内容です。	「分解禁止」の内容です。
「接触禁止」の内容です。	「水場使用禁止」の内容です。
必ず実行していただく「強制」の内容です。	

警告

本体に水をかけないでください。火災や感電の原因になります。	「分解禁止」の内容です。
この商品を構成する部品以外の取り付けや、部品の取りはずし等の改造はしないでください。器具が破損し、けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	「分解禁止」の内容です。
配管などの解氷のため、解氷機を使用する場合は、水栓(給水管含む)には絶対に通電しないでください。通電すると水栓や給水管が発熱し、破損して漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	「分解禁止」の内容です。
乾電池の取り付けがゆるい場合や、かたい場合は使用しないでください。火災や感電の原因になります。	「分解禁止」の内容です。

注意

器具に強い力や衝撃を与えないでください。器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	「分解禁止」の内容です。
めっき部品はぶついたり落としたりしないでください。鋭利な物や硬い物を当てないでください。めっきの表面が割れてけがをするおそれがあります。	「分解禁止」の内容です。
センサー面を傷つけないようにしてください。器具が破損したり、誤作動するおそれがあります。	「分解禁止」の内容です。
トイレ用洗剤・住宅用洗剤・漂白剤・ベンジン・シンナー・トイレ用ウェットティッシュ・クレンザー・クレゾールを使用しないでください。発火・ショート・感電・故障の原因となります。	「分解禁止」の内容です。
屋外や凍結が予想される場所には設置しないでください。器具が破損して、漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	「分解禁止」の内容です。
乾電池の液が漏れたときは、液をきれいに拭き取ってください。万一、液が体に付いたときは、水でよく洗い流してください。漏液した乾電池は使用しないでください。漏れた液をきれいに拭き取らないと、故障の原因となります。	「分解禁止」の内容です。
乾電池は直射日光・高温多湿を避けて保管してください。湿度が高いと乾電池に露(水分)が付き、ショートすることがあります。また、高温下に長い間放置すると性能が低下します。	「分解禁止」の内容です。
ストレーナの清掃は止水弁で必ず水を止めてから行ってください。水漏れにより家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	「分解禁止」の内容です。

警告

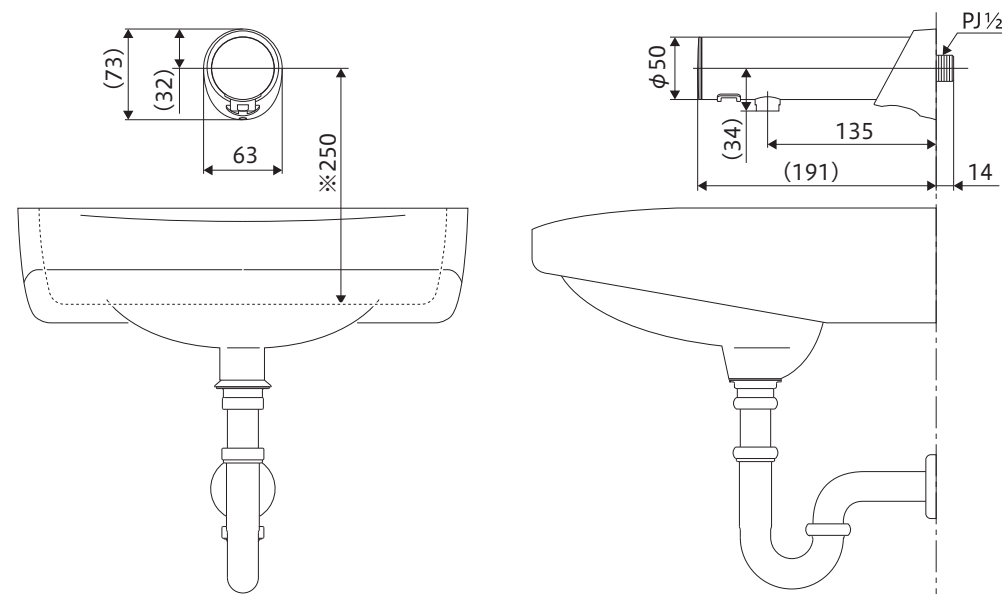
指定する電源(単3アルカリ乾電池)以外では使用しないでください。また、充電式乾電池は使用しないでください。充電式乾電池を使用した場合、使用可能な期間が短くなります。	「分解禁止」の内容です。
乾電池を水の中に入れてください。感電・ショート・火災の原因になります。	「分解禁止」の内容です。
乾電池を加熱したり、火中に投げ入れないでください。火災の原因になります。	「分解禁止」の内容です。
乾電池を充電しないでください。火災や故障の原因になります。	「分解禁止」の内容です。
分解したり、修理・改造はしないでください。火災や感電の原因になります。	「分解禁止」の内容です。
乾電池を分解したり、加工・改造はしないでください。漏電・破裂・火災・故障の原因になります。	「分解禁止」の内容です。
濡れた手で乾電池を交換しないでください。感電の原因になります。	「分解禁止」の内容です。
浴室などの湿気が多い場所には設置しないでください。故障や感電のおそれがあります。	「分解禁止」の内容です。

1 取り付け前に

使用電源	アルカリ乾電池 単3×2本
使用流体	1~40°Cの上水道水(氷結、ゴミ等の混入が無い事)
使用環境	温度 1°C~40°C
	湿度 90%以下
給水圧力	最低必要水圧: 0.05MPa(動水圧)
	最高水圧: 0.75MPa(静水圧)
吐水流量	止水栓による流量調節可能
センサ方式	赤外線反射方式
乾電池寿命	4000回/月の使用頻度として約2年(省エネモード12時間/日使用時) (Panasonic製 EVOLTA使用、使用環境室温20°C時) 使用環境によって電池寿命は変動します

- ※同梱されている乾電池は動作確認用です。お早めに新しい電池にお取り替えください。
- 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
 - 本製品は改造、加工および接合、止水機構を持った市販浄水器具の取り付け等によるトラブルについては、保証の限りではありません。
 - 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。
 - センサーの表面を傷つけないように十分注意してください。
 - インバーターや赤外線を用いた他の機器により誤作動することがあります
 - 直射日光が当たらないところに設置してください。
 - ステンレス製およびめっきを施した手洗い器や洗面器に取り付けると誤作動するおそれがあります。
 - 本製品は乾電池仕様のため、配線工事は不要です。

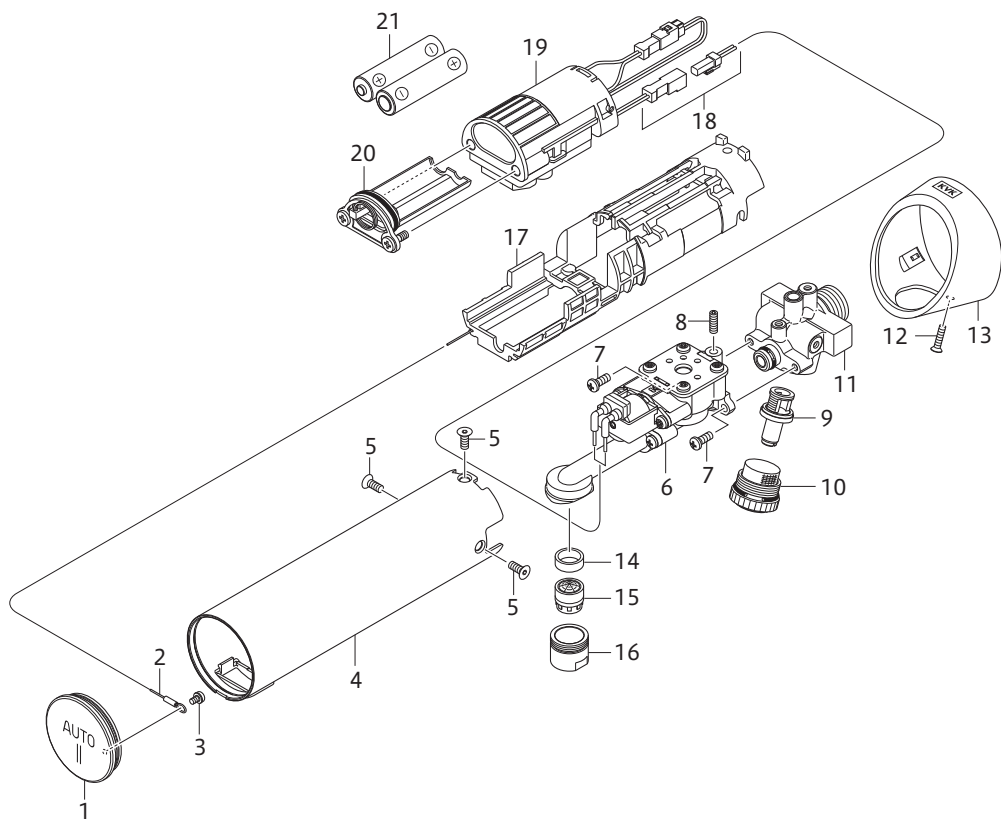
2 寸法図



- ※誤作動防止のため、水栓取り付け穴から洗面器底面までは250mm以上を確保してください。
 また、施工や流量調節のため、下記のスペースが確保されていることを確認してください。
- 本体取り付け時にモーターレンチを回転させるスペース。
 - 止水弁操作時にドライバーが入るスペース。

3 分解図 (部品の形状は仕様により異なります)

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。



1	キャップ	11	本体	21	乾電池
2	ワイヤーロープ	12	抜け防止ねじ		
3	小ねじ	13	化粧カバー		
4	本体カバー	14	パッキン		
5	さら小ねじ	15	泡まつ器		
6	電磁弁ユニット	16	吐水口金具		
7	なべ小ねじ	17	インナーカバー		
8	止めねじ	18	コネクター		
9	止水弁	19	センサーユニット		
10	ストレーナ	20	電池ケース		

5 ページ

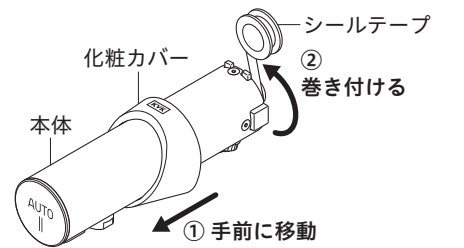
4 取り付け手順 1

1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給水管内のゴミなどを取り除いてください。

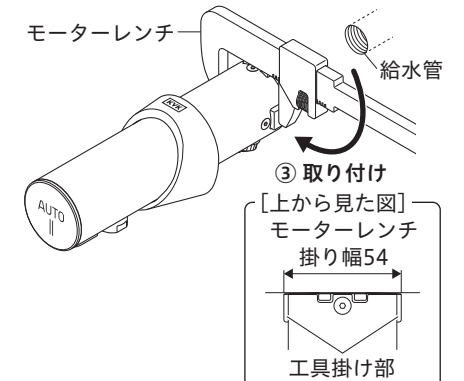
2 本体の取り付け

- ① 水栓本体の化粧カバーを手前に移動させます。
- ② 水栓本体のねじ部にシールテープを巻き付けます。



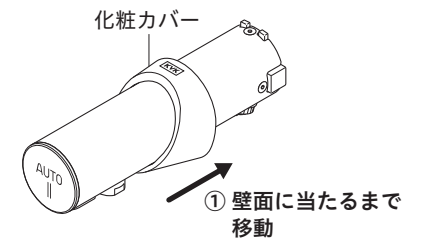
- ③ モーターレンチを工具掛け部にかけ、水栓本体を給水管にねじ込んでください。

【お願い】
水栓本体をモーターレンチで傷つけないでください。

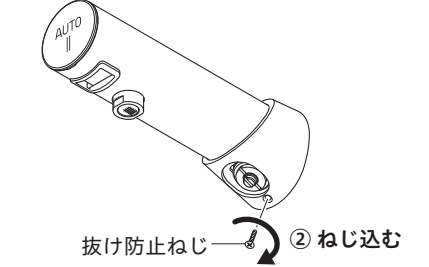


3 化粧カバーの取り付け

- ① 化粧カバーを壁面に当たるまで移動させます。



- ② プラスドライバーで化粧カバー下面に同梱の抜け防止ねじをねじ込みます。
※化粧カバーを手前に抜こうとした場合、抜け防止ねじが水栓本体に引っかかり、抜け防止となります。



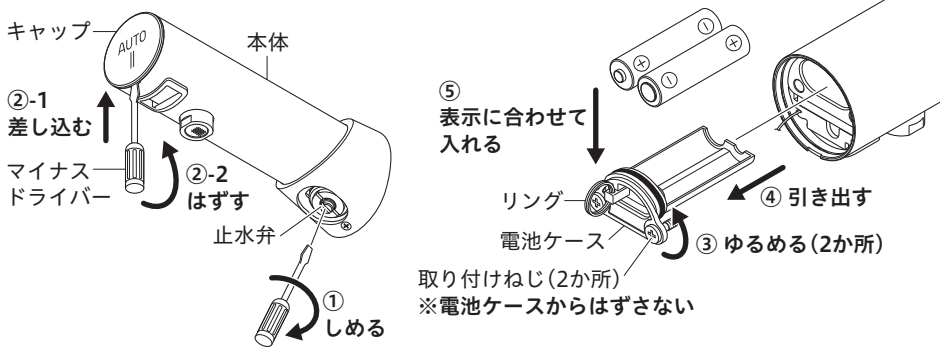
6 ページ

4 取り付け手順 2

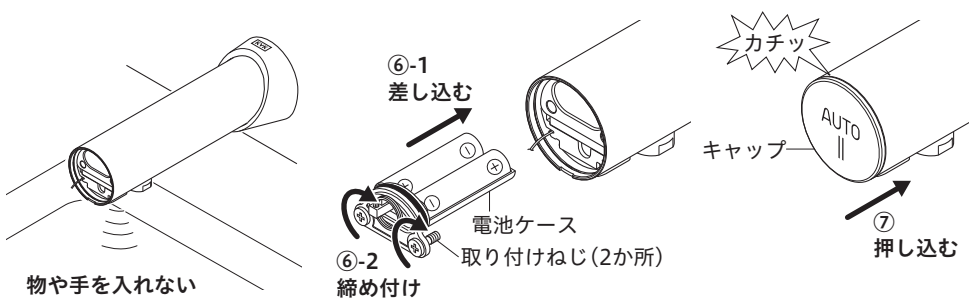
4 乾電池の取り付け

- ① 止水弁をしっかりしめます。
 - ② 本体下面の溝にマイナスドライバーを差し込みひねって、キャップをはずします。
 - ③ プラスドライバーで電池ケースの取り付けねじ(2か所)を緩めます。
※取り付けねじは電池ケースからはずれません。無理に取りはずさないでください。
 - ④ リングを引っ張り、電池ケースを引き出します。
 - ⑤ 電池ケースに新品の単3アルカリ乾電池2本を入れます。
- 【お願い】 乾電池の方向は電池ケースの表示に合わせてください。

⚠ 注意 電池ケース内に水が入らないようにしてください。感電・ショート・火災の原因になります。



- ⑥ 電池ケースを本体に差し込み、取り付けねじ(2か所)を締め付けます。
【お願い】 電池ケースを差し込むときに、センサーに手をかざしたり、陶器内に物を置いたりしないでください。(20秒程度)
- ⑦ 「AUTO」の文字が上下正しくなる向きに合わせて、キャップを本体に「カチッ」と音がするまで押し込んでください。



【お願い】 誤作動の原因となりますので、本体取り付け前に乾電池を取り付けしないでください。

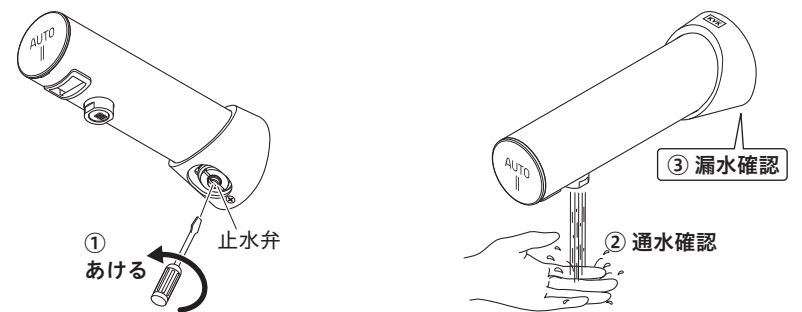
7 ページ

5 取り付け後の点検と清掃

5-1 通水確認

⚠ 注意 水栓取り付け後、通水して水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部および水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

- ① 止水弁をあけます。
- ② 手を差し出してセンサーを感知させ、水が出ることを確認します。
- ③ 接続部から水漏れがないことを確認してください。



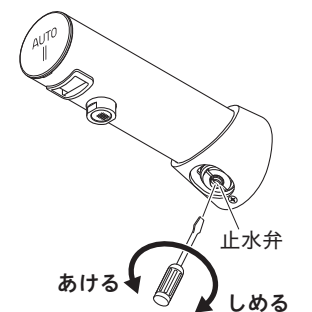
5-2 ストレーナ・泡まつ器清掃のお願い

ストレーナ・泡まつ器は施工後必ず清掃してください。ストレーナ・泡まつ器にゴミなどがつまると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりします。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ」参照

5-3 流量の調節方法

右記の方法で止水弁を操作して流量の調節をしてください。時計回りに回すと流量が少なくなり、いっぱいまで回すと止水します。また、反時計回りに回すと流量が多くなり、いっぱいまで回すと最大流量となります。



6 故障かなと思ったら

修理を依頼される前にお確かめください。

➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら」参照

⚠ 注意 修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因となります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

8 ページ

405362-00